

行政事業レビューとは

各府省自らが、実施している全ての事業を対象に、レビューシートを作成し執行状況(支出先や用途)を公表するとともに、外部の視点を活用しながら事業の点検を行い、結果を予算の概算要求や執行の改善に反映させる取組。

公開プロセスとは

レビュー対象事業の一部について、レビュー内容を、公開の場で外部有識者を交えて、検証するもの。

HPCI戦略プログラムの公開プロセス

- 開催日 平成27年度6月16日(火)
- 外部有識者(※五十音順)
 - 赤井 信郎(あかい のぶお)大阪大学国際公共政策研究科教授
 - 有川 博(ありかわ ひろし)日本大学総合科学研究所教授
 - 石井 雅也(いしい まさや)公認会計士(太陽有限責任監査法人パートナー)
 - 田辺 孝二(たなべ こうじ)東京工業大学イノベーションマネジメント研究科教授
 - 永久 寿夫(ながひさとしお)株式会社PHP研究所代表取締役専務
 - 松浦 亨(まつうら とおる)北海道大学病院病院長補佐(病院経営・情報管理担当)、臨床教授

結果

- 評価段階は、「廃止」、「事業全体の抜本的改善」、「事業内容の一部改善」、「現状通り」の4択
- 判定:事業内容の一部改善 (事業内容の一部改善: 4票, 現状通り: 2票)
- 有識者からのコメント取りまとめ
 - ・成果指標の達成度合いが不明瞭なため、個々の研究開発目標の評価・分析について工夫すべき
 - ・国民に対し、コストパフォーマンスを含めた事業成果について分かりやすく表示すること
 - ・官と民の適切な役割分担により、民の活力を活用すべき
 - ・ポスト京に向け、これまでの課題分析、官民の役割分担、成果を見えるようにして、次の事業展開に繋げるべき

行政改革推進本部 秋の行政事業レビュー(平成27年11月12日)

対象事業

- 革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ(HPCI)の構築(一般会計 15,868百万円)
- HPCI戦略プログラム【文部科学省】(一般会計 0円) ※平成27年度終了
- ポスト「京」の開発(一般会計 7,664百万円)

提示された論点

- 「京」やHPCIの運営に年間約130億円の国費が投入されているが、これに見合う成果が得られているのか。
- 「京」の高い演算性能を必要とする研究利用のニーズは十分にあるか。
- 産業競争力強化に資するという目的に鑑み、「京」の産業利用は適切かつ十分か。
- 「京」の利用者の選定手続について透明性は十分か。

指摘事項と対応方針

①成果を分かりやすく説明すべき。

- スーパーコンピュータの意義や成果について、多くの広報活動を行っているが、今後は取組そのものの認知を高めるとともに、より一層工夫して、科学的成果及び実用的成果を分かりやすい説明に最大限努力する。特に、平成28年度には経済波及効果について新たに算定すべく検討を進める。

②産業利用の割合を高めていくべき。

- 現在、全利用者の3割以上が産業利用であるが、平成28年度には専用枠を5%増加(合計15%)する。

③利用者の選定手続きについて、公表の範囲を拡充し、透明性を高めるべき。

- 中立・構成な審議の確保に留意して他の事例も参考に運用しているが、今後、選定委員会の配布資料のうち、申請時の課題内容等の公開すべきでないものをより厳正に選別し、それら以外については、順次公表を検討する。

④国費投入額の削減に努力すべき。

- 「京」については、これまでも経費の合理化・効率化等に努めているが、平成28年に中間評価を実施し、効果的・効率的な運用に努めていく。
- ポスト「京」については、平成28年度に外部有識者によるコスト・性能評価を実施し、海外との比較や経済効果も含めてしっかりと検討していく。